

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会

MSW ニュース 11月号

2018年11月1日発行

事務局：大浜第一病院

〒902-8571 那覇市天久 1000 番地

TEL (098) 866 - 5171

FAX (098) 864 - 1874

E-mail t-matayosi@ns.omotokai.jp

編集：金城 大樹（豊見城中央病院）

◆◆今月の CONTENTS◆◆

■ 研修参加報告

- ・ 第9回日本医療ソーシャルワーク学会鹿児島大会参加報告 ハートライフ病院 望月祥子・・・1
- ・ 入退院支援連携デザインに係る研修参加報告 豊見城中央病院 堀川理絵・・・2

■ 在宅医療・介護連携（宮古圏域）宮古だより

沖縄県立宮古病院 奥平藤也・・・2

■ 自主勉強会報告

- ・ めだかの放課後

大浜第二病院 安慶名真樹・・・3

■ 新入会員紹介

- ・ 宮里病院 外間光

・・・・・・・・・・・・・・・・4

- ・ 南部医療センター・こども医療センター 砂川愛理沙

■ 部会からのお知らせ 研修部だより

北中城若松病院 香村真範・・・・・・・・4

■ 10月理事運営会議録

・・・・・・・・・・・・・・・・6

■ 編集後記

豊見城中央病院 金城大樹・・・・・・・・8

研修参加報告

第9回日本医療ソーシャルワーク学会鹿児島大会 学会参加報告

平成30年9月15日～9月16日 ハートライフ病院 医療福祉相談室 望月祥子

2日間にわたり、かごしま県民交流センターにて開催されました。学会顧問である京極高宣先生の特別講演「今、求められている医療ソーシャルワーカー～地域医療福祉士への道～」、NPO 法人つながる鹿児島理事長である芝田淳先生の基調講演「身寄り問題に挑む」、厚生労働省大臣官房審議官（総合政策〔社会保障〕）担当である伊原和人先生の特別講演「2040年を展望し、社会保障の在り方を考えると・・・」とお三方の講演があり、その後研究発表とワークショップと盛沢山な内容でした。

講演では、社会問題である身寄り問題（連帯保証や身元引受人）に対してどう取り組むべきかや、医療ソーシャルワーカーの今後の在り方、そして2025年問題ではなくその後やってくる2040年に向けて日本の社会保障の現状や課題から、地域共生社会とは何かについて学ぶ機会となりました。私自身の勉強不足を痛感したのは、2年前に国連から日本の成年後見制度は権利条約に抵触していると指摘されており、同年成年後見制度利用促進法が制定され矛盾を抱えている状況にあるということでした。身寄り問題を考えるにあたり、権利擁護についてあらためて考えていかなければならないと感じました。今私たちは2025年問題に対して各所属施設や地域との会議の中で取り組みをしていますが、国の話し合いは既に2040年に向けて動きはじめています。自身の働く地域の人口動態を読み解き、医療介護就労人口（人材不足）、健康寿命、高齢者の就労、訪問診

療の担い手のあり方、ソーシャルキャピタル等々と勉強することは沢山あり、地域包括ケアは医療と介護だけにとどまらず、今後のビジョンを市町村単位で考える必要性をあらためて実感しました。

また、研究発表では、中頭病院 MSW 秦氏と共同研究した「急性期病院 MSW にとって必要な業務報告とデータ分析について考える」を発表してきました。県外の報告も聞き、新しい知識と、新しい MSW の仲間が増え、有意義な時間が過ごせたと思います。

来年 2019 年は 9 月 14 日～15 日に神戸にて第 10 回大会が予定されています。育ちあうことを基軸におき、自らの実践力と高める研修を重ねていく学会となっていますので、興味がある方は是非ご参加ください。

学会からは『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーカー実践テキスト』(日総研)が今月発刊されています。今、現場で使えるテキストとなっており、早速購入して読み始めたところです。

入退院支援連携デザインに係る研修参加報告

平成30年9月22日 豊見城中央病院 入退院支援室 堀川理絵

平成30年9月22日入退院支援連携デザインに係る研修<地域住民への普及啓発～ACP について～>が行われ、札幌市にある西岡病院から岡村紀宏氏、名古屋市医師会から黒木信之氏を講師としてお招きしご講話頂きました。その中でも印象深かった内容について報告します。

まず、岡村紀宏氏の講話では北海道胆振東部地震の経験を踏まえお話いただき、いかに普段から医療・介護・地域との連携が大切かという事、そして各関係者が生活支援を行う中でアドバンス・ケア・プランニングについて“日頃から繰り返し話し合う”事が大切であるという事を学びました。中でも印象的だったのが、岡村氏の『ACP は生活支援であり、「繰り返し」「話し合い」「つなぐ」事が大切。支援者は仕事として患者・家族に関わるのではなく“自分の家族だったら”という視点で関わる事が必要』という言葉でした。

次に黒木信之氏の講話では、名古屋市で地域住民に対し、実際に行なわれている地域包括ケアシステムについての普及活動やメディカルエンディング(終末期)の医療・看護・介護の取り組みについてパペットを使い実演して頂きました。

今回受講し、岡村氏のおっしゃるように“自分の家族だったらという思いで関わること”これが本当のアドバンス・ケア・プランニングなのだと、改めて考えさせられるきっかけとなりました。また、現在医療福祉業界では徐々にアドバンス・ケア・プランニングの活動が広まりつつありますが、まだまだ地域社会や院内でも、知られていない現状があり、黒木氏のように地域に向けた講演などが広まればいいなと感じました。

今回学んだこと、MSW として当たり前患者・家族に寄り添う事を忘れずに私自身も成長していきたいと思いました。

在宅医療・介護連携(宮古圏域)

宮古だより

沖縄県立宮古病院 奥平藤也

係の方から、宮古の医療・介護連携事情について記事をお願いとの依頼を受けましたが、正直どうしようかと悩みました。赴任してまだ半年、地域の活動にたくさん出席もしているわけでもなく分からない部分も多い…。なので、今回は地域の紹介と宮古病院が行っている2つの取り組みから、医療・介護の状況に少しふれたいと思います。

県立宮古病院は人口 55,000 の宮古島市の中心部にあります。周辺の伊良部島、下地島、池間島、来間島は橋でつながっていますが、これらの島々からの救急患者も 30 分ぐらいあればだいたい当院に搬送することができる好立地にあります。また、当院の附属診療所として、多良間診療所があります。宮古保健医療圏には当院のほかに2つの病院がありますが、回復期リハビリテーション病棟はなく、沖縄本島などの医療機関に転院してリハビリをする方も多いです。地域の医療資源は少ない面もあるかも知れませんが、訪問診療や訪問看護といった地域医療で困ることは、あまりありません。地域では要介護高齢者の一人暮らしや夫婦2人暮らしの世帯も多いのですが、地域で活躍されているスタッフの熱意に何とか支えられているという印象があり、頭が下がります。

県立宮古病院が行なっている主な取り組みとしては、「地域連携協議会」と「在宅支援連絡協議会」という2つがあります。それぞれ年4回開催されており、このうち地域連携協議会は職種を問わず、院内外の医師、看護師、ケアマネジャー、調剤薬局、行政など多数参加されます。議題も、人工呼吸器装着患者の台風時の避難に関することや、アルコール性疾患と生活習慣病に関する医師会の研究発表など、多種多様です。もうひとつの在宅支援連絡協議会は、主に当院と訪問看護師、地域包括支援センター職員で構成されている看護職がメインの会ですが、連携についての意見、要望を出したり、改善策を話し合う会となっています。ほかに、地域の各職種間で会議を持ったりしているようです。

当院で社会福祉士として働いているのは自分1人ですが、みなさんのやさしさ、親切にふれながら楽しく働かせてもらっています。紙面の都合で書ききれないことはまた別の機会に。

自主勉強会報告

めだかの放課後

大浜第二病院 安慶名真樹

9月 27 日(木)開催されためだかの放課後の内容を報告します。地域包括ケアシステムが各医療機関や地域でも頻繁に耳にするようになりました。今回は「サマリー」の書式について話し合い、学び合いをしたので報告します。

各医療機関で記載される、各職種のサマリーが、現状では各医療機関で異なっているのですが、このバラバラの書式を統一し、地域ともしっかりと医療介護連携が図れないか、という試みをすでに那覇地区では話し合わせ、検討が進んでいる、という事象の紹介がありました。今後は全県にまたがって使用が進むこともあるかもしれないと、現在県医療ソーシャルワーカー協会で作成されているモデル書式をもとに、地域や関係機関はどういう情報を必要としているのか、MSWからは何を発信したらいいだろうかと、話し合いがなされました。参加メンバーは、急性期・回復期・慢性期に所属しており、病院の役割や立場も異なっているため、統一書式は難しいのでは？と初めは尻ごみをしていましたが、ソーシャルワークの立場から考えると、案外共有する部分も多いことが見えてきて、必要な情報・項目がなんだか整理できそうな気にもなりつつ、勉強会の終了時間を迎えました。

簡単な取り組みではないですが、必要な情報をわかりやすく丁寧に扱って引き継いでいくことの大事さは、皆日々実感しています。SWの質を担保するためにも必要な取り組みなのではないか、と皆で共通認識が持てました。「難儀なことはたいがい大事なこと」として、これからも取り組んでいきたいと思えます。

新入会員紹介

宮里病院 ソーシャルワーカー室 外間光

平成 30 年 4 月より宮里病院へ入職いたしました外間と申します。これまで福祉の仕事の経験は全くなく、転職を考えていた際に知人に福祉現場での相談業務について紹介され、金武町にある琉球リハビリテーション学院へ通い今年の 3 月に資格を取得し、運よく地元の名護にあります当院へ採用していただきました。現在は先輩職員のもとで回復期リハビリ病棟にて入院から退院まで様々な業務をご指導いただいています。社会資源の限られた北部地域でどのような支援ができるのか模索しながら業務に取り組んでいます。MSWの初任者研修では他院に勤務されているワーカーさんの話を聞くことができとても刺激になりました。今後も研修などへ積極的に参加をしていきたいと思っておりますので皆さま宜しくお願い致します。

南部医療センター・こども医療センター 砂川愛理沙

初めまして、4月に南部医療センターに入職し、約半年が経ちました砂川愛理沙と申します。毎日があっという間に過ぎていき、沖縄コンベンションセンターで試験を受けたことがつい最近に思えています。学生の頃から病院で社会福祉士として勤務できたらと考えており、病院での実習を経て、このような形で南部医療センターに勤務でき、夢が一つ実現した気がしております。

南部医療センターでは、様々な人生背景を抱えた方がおり、また急性期ということで迅速な判断が求められるため入職始めの頃は、自分にできるのかと不安でした。先輩方の助言もあり、毎日勉強の日々です。日々精進していきますので、皆様と関わった際は宜しくお願い致します。

部会からのお知らせ

* 1 1 月研修部だより *

九州医療ソーシャルワーカー協議会中堅者研修(4年以上15年未満)

テーマ	ソーシャルワークによる退院における実践の自己評価 講師:小原真知子 先生
日時	平成30年11月25日(日)9:00受付 10:00開始 15:00終了
会場	那覇市立病院 3階講堂
参加費	3,000円
問い合わせ	北中城若松病院 医療福祉相談課 香村
備考	詳しくは、沖縄県MSW協会ホームページをご覧ください

めだかの学校(おおむね経験年数3年未満)

テーマ	「回復期リハビリテーション病棟におけるMSWの役割」について 講師: 嘉手納 泉也 (大浜第一病院)
日時	H30年11月14日(水) 19:00~
会場	大浜第一病院 会議室
参加費	無料
問い合わせ	大浜第二病院 医療福祉課 謝敷

めだかのホームルーム(おおむね経験年数3年以上)

テーマ	スーパービジョン (嶺井第一病院 回復期リハ病棟の事例)
日時	H30年11月7日(水) 19:00~
会場	嶺井第一病院
参加費	無料(飲食代100円)
問い合わせ	沖縄協同病院 地域連携課 松永

めだかの放課後(経験年数5年以上)

テーマ	多職種連携コンソーシアム実践研修会に向けた事例の査読
日時	H30年11月1日(木) 19:00~
会場	中頭病院
参加費	無料(飲食代200円)
問い合わせ	大浜第二病院 医療福祉課 當銘

OGSV

テーマ	九州医療ソーシャルワーカー研修会 おきなわ大会 予演会
日時	H30年11月14日(水) 18:30~
会場	那覇市立病院
参加費	無料
問い合わせ	那覇市立病院 樋口

平成30年10月23日付
発行 香村(北中城若松病院)

10月理事運営会議録

開催日時	2018(平成30)年10月15日(月)18:30~21:00
場 所	総合福祉センター
出席者	樋口会長、新垣副会長、當銘、安慶名、望月、伊禮、長、石郷岡、秦、 香村(記録)

【各部報告】

(研修部) 香村

○九州医療ソーシャルワーカー協議会 中堅者研修について

- ・40名定員の目標に対し、現在12名の申込み(県内6名、県外6名)。九州各県へ再度周知の依頼済。

県内へも周知(広報誌の遅れもあり行き届いていない影響か)→香村にて各病院へ近日中にFAXを行うことへ。

- ・小原先生が10/24(土)1830頃那覇着の予定。会食を設けるのか先生と協議へ。
- ・研修会での開会の挨拶は樋口会長へ依頼済み。
- ・当日の運営は基本的に九州協議会教育研修部メンバーで行うが、一部(会場設営、誘導等)の協力依頼を県協会へ。
- ・当日の役割やスケジュールについては配布資料を参照。

○めだかの学校

- ・11月14日(水)19:00~「回復期リハビリテーション病棟におけるMSWの役割」について、大浜第一病院・嘉手納氏が講師の予定で調整。
- ・事例検討について。1月に事例の作成について学び、2月~3月作成期間。次年度に検討会の構想。事例作成について講師依頼があれば理事会へ図ることへ。

○めだかのホームルーム

- ・11月7日(水)19:00~「嶺井第一病院 回復期リハ病棟の事例検討」を予定。

○めだかの放課後

- ・10月開催は見送り、11月開催分も含め下記へ予定する。

日時:11月1日(木)19:00~中頭病院 「多職種コンソーシアム実践研修会(多職種による自立に向けたケアプランに係る議論の手引き)事例検討」を予定。

当日までに各自で事例を読み込んでくること。

○OGSV

- ・11月14日(水)18:30~那覇市立病院 「おきなわ大会予演会」
発表者への案内は香村が行う。

(広報部) 安慶名

- ・ 1 1月編集担当 豊見城中央病院 金城さん
- ・ 9月分の広報誌の発送は？大会や研修案内もあるので要確認。

(社活部) 秦

- ・ 報告事項なし。

【ちゃーがんじゅう課との意見交換会】伊禮、新垣

- ・ 先方より、申請の際に「医療機関からの情報として必要な項目(別紙)」が提案されたが、実務のなかでこれらに対応し得るものなのか、項目(情報)の検討、目的をしっかりとさせて、改めて協議していく。申請のためだけでなく、ケアマネへの情報提供等、他の業務への活用ができるような視点も持ち合わせていくことへ。

【九州おきなわ大会実行委員会】望月、長

- ・ 1 0月会議にて当日の動きの確認も大枠できている。予算については、大会参加費と広告費用を中心に収支計算を行いマイナスにならないように注視。
- ・ 1 1月委員会には、樋口氏、新垣氏、石郷岡氏、高江洲氏の参加を依頼し全体で確認を行いたい。
- ・ 今日現在の申込み50名程度。県内向けには再度周知を(申込み未の施設へFAX)。

【沖縄県ソーシャルワーク協議会4団体】當銘

- ・ 3演題を募る。候補として、県慢性期研究発表で出た、勝山病院、北中城若松病院。

【入退院支援デザイン事業】樋口、伊禮

- ・ 1 2月8日(土) 共通研修Ⅱ 富樫先生。
- ・ 3月2日(土)～3日(日) 退院支援における自己評価について 小原先生、佐原先生 専門研修として予定。
- ・ 3月9日(土) 午後 ACP講演会 内田先生、猿渡先生。産業支援センター中ホール予定だが、中学校の卒業式が多い日。

→上記日程については再度確認(特に3月は立て続けての形となる)

【PT協会県委託事業多職種コンソーシアム実践研修のための代表者会議(説明会)】

- ・ 10/12(金) 新垣哲治氏が参加し下記報告(配布資料参照)

目的が、今後市長村が実施していく多職種連携型ケアプラン点検と地域ケア個別会議等を一貫した地域ケアマネジメント機能を支える重要なプレイヤー(専門職)の資質向上、各専門団体研修の促進を図るためのパイロット事業として実施。

主な事業に、「市町村支援アドバイザー派遣事業(ひとり地域包括支援センターへの事務支援や地域づくりの支援等)」、「多職種コンソーシアム実践研修事業(職能団体や法人・個人が参加し、自立支援、重度化防止、必要専門職の実践力のあり方)」についての研修プログラムが企画されていく。12月24日にある研修会では、疾患別アプローチにおける専門職の役割と機能、各専門職団体別GW、模擬地域ケア会議等が予定されており、そこへの参加とMSW協会としての発言が求められる。この点については、めだかの放課後、理事会で協議していく。

【事務局より】

入会1名。

【その他】

- ・11/3 全国会長会への参加は、新垣氏、當銘氏が予定。
- ・平成30年沖縄県がん対策委員会の委員の推薦 → 例年通り樋口さんを推薦へ
- ・沖縄タイムス特別報道チームより「消費者トラブル相談室」「みみぐすい」等のコラム掲載依頼あり。
ありがたいお話ではあるので担当者と今後どのように進めていくか（例えば取材してもらって）とか。
協力する姿勢で来年度から取り組めるのか確認。
- ・10/30 なごみ会参加は又吉氏を予定（困難な場合は當銘氏）

次回理事会 11月19日（月）司会：新垣、書記：長、連絡：望月

沖縄県医療ソーシャルワーカー協会のホームページ
<http://www.msw-oaswhs.jp/>

編集後記

夏のおわり。涼しくなり、沖縄はだんだん過ごしやす季節になってきました。

季節の変わり目で、みなさま体調管理が大変だと思いますが、お体に気をつけてお仕事がんばっていきましょう。お忙しい中、原稿執筆担当していただいた皆様、快く引き受けて頂きありがとうございました。編集を担当するのも今回で4回目、少し要領が分かってきたような気がします。